

日本文学専攻

Japanese Literature

東京板橋キャンパス

高度な専門性をもつ教員の指導のもと 学び甲斐のある充実した授業を展開

日本文学専攻では、古典から近現代文学、日本語と多彩なメニューを用意し、少人数制の授業を通して、きめ細かな教育を行っています。高度な専門性を持つ専任教員に加え、何人かの非常勤の先生方にも加わっていただき、学び甲斐のある充実した教育を提供できるよう努めています。

もっとも、大学院での研究では、院生個々人の主体性の発揮こそが重要になります。独自の問題意識をもって対象に取り組み、斬新な角度から問題を設定し、説得力ある方法でそれを解明することが求められます。教員は、そういう活動を支える援助者にすぎません。

大学院は博士課程前期課程（修士課程）2年と博士課程後期課程3年に分かれています。中学・高校の教員を目指す人などは前期課程のみで巣立っていくことも少なくありませんが、さらに研究を重ね、研究者を目指そうとする人は、後期課程に進み、博士の学位の取得を目標にすることになります。



日本文学専攻主任
藤尾 健剛教授

学位取得論文

- 近世期における擬人化作品の研究
- 『日本霊異記』研究
- 日本語会話におけるスタイルシフトの研究
- 『日本霊異記』における地獄思想
- 三卷本『枕草子』地名類聚的章段の研究
- 藤村文学研究 ―『破戒』を中心とした研究―
- 馬琴作品に登場する楽器について
- 日本神話と祝詞

Student Voice



日本文学専攻
博士課程前期課程 1年

陳 宇軒さん

大東文化大学 文学部日本文学科卒

物事を多角的に分析し、論理的に言語化していく力が成長

学部卒業を控えた時期、日本文学、とりわけ三島由紀夫作品をより深く専門的に探究したいという思いから大学院進学を決意しました。大東文化大学大学院を選んだのは、日本文学研究の環境が充実しており、自分の関心分野を丁寧に掘り下げられる指導体制に魅力を感じたためです。進学前は、留学生として日本語での論文執筆や高度な専門研究についていけるか、また年齢面でも少し不安がありました。が、教員のきめ細やかな指導と周囲の支援により、研究を進める中で自然と解消されました。現在は三島由紀夫の戯曲『癡王のテラス』を研究しており、作品の新たな解釈を見出すことに大きなやりがいを感じています。一方で、膨大な先行研究を踏まえつつ独自の視点を確立する難しさに直面することもあります。そうした学びを通じて、物事を多角的に分析する「批判的思考力」、それを論理的に言語化する力が成長したと感じます。今後は博士課程への進学を目指すとともに、将来的には日本で研究を続けながら専門的なキャリアを積んでいきたいと考えています。

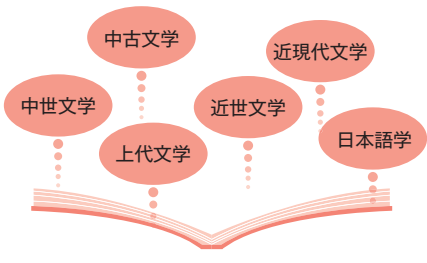
学びの特長

古典と近現代文学、日本語と多彩なメニューを用意し、少人数制の授業のなかで、きめ細かな指導を行っています。



【Webサイト】
文学研究科 日本文学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/literature/outline.html#anc01

学べる領域の図



日本文学専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

木村 陽子 博士(文学)／教授 日本近現代文学	博前 博後	小説のほかに、演劇や映像メディアも研究しています。	美留町 義雄 修士(文学)／教授 日独比較文学・文化	交通やメディア、服飾など、西洋の諸文化の流入が、私たちの生活やものの見方をどのように変えていったのか探求します。
藤尾 健剛 修士(文学)／教授 日本近代文学	博前 博後	主な研究対象は夏目漱石。漱石は作品ごとに新しい地平を切りひらいていく偉大な作家で、やりがいがあります。	山口 敦史 修士(文学)／教授 上代文学	日本上代の文学作品を研究します。『日本霊異記』などの説話文学を主な対象とします。
滝口 明祥 博士(日本語日本文学)／教授 日本近現代文学	博前 博後	井伏鱒二や太宰治を中心に近現代文学を研究しています。個々の作品を、それが生み出された同時代の文脈に置き直すことで開示される意味や価値を把握するよう努めています。	田村 正彦 博士(日本文学)／准教授 中世文学	古典文学に表れた地獄に関する言説を、地獄絵等も用いながら思想史という形で読み解いていきます。
富樫 純一 博士(言語学)／准教授 日本語学	博前 博後	日常生活や小説・漫画で用いられることは、特に、感動詞や終助詞を中心に研究しています。	山田 悠介 博士(異文化コミュニケーション学)／准教授 環境文学	現代の日本の環境文学を、文体論やコミュニケーション論の観点から研究しています。
藤井 史果 博士(文学)／講師 近世文学	博前 博後	近世文学における「笑い」について研究をおこなっています。とくに近世初頭から幕末まで、絶えることなく編まれ続けた短編笑話集「噺本」の読解を通して「文字で表現された笑い」の特質に迫ります。	大西 由紀 博士(学術)／講師 比較文学・文化、翻訳研究	近代日本におけるオペラの変容を中心に、詩や演劇や音楽の翻訳に広く関心を持っています。

Topics

ヴァラエティに富んだ優秀なスタッフを配した 教育・研究体制を構築

日本文学専攻では、上代から近現代までの文学と日本語を担当する10名の専任教員が指導に当たっています。どの教員も、それぞれの分野で顕著な業績を持つスペシャリストです。大学院生は、少人数の授業のなかで、教員との手厚く濃密な個別交流を通して専門的な学識を深めることができます。

どの分野の研究でも同じことですが、文学研究・日本語学研究でも、先行の業績を乗り越える新たな知見を打ち出すことが要求されます。日本文学専攻の教員たちは、各自が専攻する分野において、先行研究と格闘しながら、それぞれにユニークな見解を打ち出そうと努め、それに成功してきた人々です。チャンピオン・ベルトを獲得するほどに至っているかどうかは分かりませんが、歴戦の勇士であることは確かです。

そういう研究者と親しく接し、個別的な指導を受けることは、小さくない利益が得られるでしょう。

院生会による 『日本文学論集』の刊行

日本文学専攻には、前期課程・後期課程の垣根を越えて交流する「日本文学専攻院生会」があり、研究の活性化を図っています。その中の1つの取り組みとして『日本文学論集』を刊行しています。1977年より刊行し続けている『日本文学論集』は、院生が論文の執筆、論集の製本、発刊まで行っており、質の高い論文が寄稿されています。院生が一貫して論集を作成することで、研究への主体性も育んでいます。



中国学専攻

Chinese Studies

東京板橋キャンパス

博士課程 前期課程

博士課程 後期課程

中国学として中国の文学・歴史・哲学を総合的に学び、その学びのなかで自身の研究テーマについて探究する

中国学と聞いて耳慣れない方もいるかもしれません。中国学とは、中国の文物一般を研究する学問の総称であり、シノロジーとも称されます。本専攻では、そうした伝統的な中国学の考え方にに基づき、中国文学、中国史学、中国哲学の各専門のコースに所属しながらも、三つのコースを総合的に学びながら、自身の研究テーマを探究していくことになります。

中国前近代の知識人の在り方を考察していくと、ある政治家が、歴史的な著作や文学的なそれを残していたり、あるいは詩人としてあるいは書家として作品を残したり、また、その人物が儒家であったり道家であるというケースが多く見受けられます。中国の文学、歴史、哲学の問題を探究する際、この中国学という捉え方が有効と考えられる理由の一つです。こうした中国学のカリキュラム編成のなかで自身の研究に取り組むことのできる大学院も日本では数少なくなってきました。本専攻では、中国学を踏まえた高度な専門性をそなえる教員が各コースに在籍しており、皆さんの知的探究をお手伝いする体制が整っています。

また、毎年中国などから外国人講師を招聘し、特別講義を開催して、国際的な学界動向にも関心をもてる環境づくりに配慮しています。大学院生の皆さんの活動も活発で、自発的に研究会を企画するほか、毎年、学術雑誌『中国学論集』を編集・刊行しています。



中国学専攻主任
小尾 孝夫教授

学位取得論文

- 後漢魏晉時代における家庭教育
- 王弼の「言葉」の議論 ―「名号」と「称谓」を中心に―
- 小篆について ―説文解字と石刻資料を中心に―
- 「化」に生きる ―陶淵明詩における「化」―
- 漢武帝の人事政策
- 蜀漢政権と北来人士
- 周代の士
- 前趙・後趙・前秦の尚書
- 曹魏の都督と護軍の関係について
- 毛宗崗本『三国志演義』における魯肅像

Student Voice



中国学専攻
博士課程前期課程 1年
平野 新太さん
大東文化大学 文学部中国文学科卒

総合的な視点に立って中国学を学べる点に魅力を感じます

漢文を読み解く楽しさに触れ、より専門的な環境で研究を深めたいと考え、大学院への進学を志望しました。本専攻では、中国学を「文学」「史学」「哲学」の3つの専門分野から選択して研究する形をとっています。各々の領域を互いに関連し影響しあうものとして捉える中国学の枠組みのもとで、他分野の知見も参照しつつ、史学を総合的な視点から深化させることができる点に魅力を感じ、本学を選びました。現在は、三国時代の孫呉政権における権力構造を、婚姻関係に着目して分析しています。政治上の人物関係が立体的に見えてくる点が面白く、婚姻関係を丁寧にたどることで、その背後にある結びつきが浮かび上がり明確になります。こうした研究やゼミでの報告、議論を重ねる中で、根拠を示して説明する姿勢や、異なる意見を踏まえて考えを修正する姿勢が身についたと感じています。今後は教員を目指しており、さまざまな研究を通じて培った資料を読み解く力や、物事を一つの見方に関心せず多面的に考える姿勢など、大学院で得た経験を活かしていきたいと考えています。

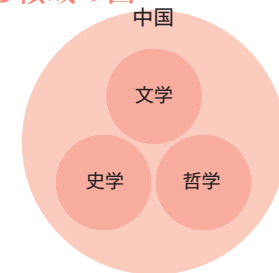
学びの特長

文学・史学・哲学の三つの分野に各々専門家を配置して、多方面の研究者・専門的職業人の養成を目指します。



[Webサイト]
文学研究科 中国学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/-literature/outline.html#anc02

学べる領域の図



中国学専攻 専任教員

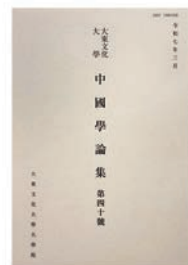
※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

大橋 由治 修士(文学)／教授 中国文言小説	博前 博後	妖怪、幽霊、神、仙人、美女、動物、夢などが登場し独特のプロットを展開する中国の説話を研究しています。	小尾 孝夫 博士(文学)／教授 中国中古史	博前 博後	中国の魏晉から隋唐にかけての歴史、とくに、東晋南朝(宋・齊・梁・陳)時代の政治史および政治制度史について研究しています。
小塚 由博 博士(中国学)／教授 中国文学(明・清)	博前 博後	明末清初という激動の時代を生きた文人たちの文化活動(詩・文・随筆・小説・戯曲・書画の制作など)を考察し、彼らの多様な生活の実態を研究しています。	宮井 里佳 文学修士(博士後期課程単位取得満期退学)／教授 仏教学・中国仏教	博前 博後	中国中世(北魏後半～初唐頃)の宗教思想、浄土教を中心に、中国撰述經典や仏教類書、景教などを文献学的に研究しています。
高橋 睦美 博士(文学)／准教授 中国道家思想・「老子」注釈史	博前 博後	「老子」を中心とした中国の古代から中世までの思想史を研究しています。	亀澤 孝幸 博士(書道学)／講師 中国書道史・書論		書の歴史を物質と観念の両面から探究しています。
宮田 義矢 博士(文学)／講師 宗教学・民間宗教		近代中国宗教、特に儒教・仏教・道教や民間信仰が入り混じって形成された「民間宗教」と呼ばれる宗教伝統を中心に研究しています。			

Topics

機関誌『中国学論集』

中国学専攻では、院生が主体となり、毎年度『中国学論集』という雑誌を刊行しています。最近では、大学院の演習中に読み進めた文献の「訳注」を、成果として報告しています。文献を読んで終わりではなく、それを成果として公表することは、研究を行う上では、大変意義があることです。本雑誌では、「訳注」の他、「論考」、「翻訳」、「書評」、「資料紹介」等のテーマで、各自その成果を報告することができます。(後期課程 阿久津光貴)



中国哲学演習(『老子解』)

北宋の蘇轍著『老子解』は、その注に、儒・仏・道の三教の思想が窺えるのが特徴です。授業では、章ごとに担当者を決めて輪読します。担当者は、考異・書き下し文・現代語訳・語注を作ってレジュメにし、他の参加者とその検討を行います。内容読解の前に、版本の校勘を行うため、書誌学・校勘学の知識が生きてきます。現代語訳の際には、現代日本語の表現を工夫し、原文の細かなニュアンスを的確に伝えられるようにすることを重視しています。(前期課程 北澤隆志)



中国史学演習(『建康実録』)

唐の許嵩撰『建康実録』は、建康の歴史や地理、さらには六朝期の遺跡を考察する上で重要な史料です。本書は、建康周辺の情報にとどまらず、六朝期の歴史を包括的に把握できる点に特色があります。本授業では、正史の記述と照合しながら本書を精読し、史料の読み解き方と歴史理解を深めていきます。読解およびレジュメ作成を通じて、史料批判能力と論理的思考力を養います。また、本授業で培われる知識や方法は各自の研究の基盤となるため、継続的かつ主体的な取り組みが求められます。(前期課程 羅洋)



英文学専攻

English Literature

東京板橋キャンパス

修士課程

学びの特長

歴史と伝統のある英語圏の文学や文化を学び、豊かな人間性と創造力溢れる国際化に適応できる人材の育成を行います。



【Webサイト】
文学研究科 英文学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/-literature/outline.html#anc03

学べる領域の図

英文学

米文学

英語学

英米文化

奨学金を活用した1年間の留学を通じて
英米文学・文化を考究

英文学専攻は、大きな柱としてイギリス文学とアメリカ文学、そして英語学を教授しています。イギリス文学ではシェイクスピアの時代から20世紀あたりまでをカバーしていて、アメリカ文学は19世紀に関しては巨匠ホーソーとヘンリージェームズの研究者を擁し、その周辺作家に関する授業も展開しています。また21世紀という新しい時代の作家にも対応しています。英語学に関しては、教員の専門性はあるものの、院生の要望を積極的に受け入れて、期待に応える授業を展開しています。専任教員にしても非常勤教員にしても、院生に対して柔軟に対応し、真摯な教育を行っています。

少人数ゆえに、院生同士のつながりは強く、コミュニケーションは緊密に取られています。

大学院は修士課程2年間で構成されています。英文学専攻の最大の特徴は、院生が希望すれば、毎年1人もしくは2人は奨学金が与えられて、1年間留学できるということです。留学して、結果的に海外で修士号(MA)を取った人も少なくありません。最近の例をいくつか紹介すると、イギリスのバーミンガム大学やランカスター大学でMAを取っています。英文学専攻のこのような特典をぜひ享受してください。

英文学専攻主任
里見 繁美教授

学位取得論文

- Lewis Carroll's Sound Techniques in The Nursery "Alice"
- The Politics of the Gaze in the Works of Charlotte Brontë
- The Transformation of Naomi Alderman's Philosophy of Gender
- Elizabeth Gaskell and the Problems of Female Roles in the Involvement of Medical Care
- The Structure of the Mother and Daughter Relationship in British Novels
- Girls' Quest for Womanhood
- British Minorities in the Works of Andrea Levy
- 認知言語学のアプローチから提案する前置詞のコアミーニング

Student Voice

英文学専攻
修士課程2年
崔 明欣さん
中国・長春大学
外国語学部 英語学科卒

ディスカッション授業で知る多様な解釈に刺激を受ける日々

大東文化大学の大学院は、1年間を通してシンポジウムや特別講義などの行事が充実している点に魅力を感じました。自身の研究を深めるだけでなく、学外の先生方の話を聞ける機会や、Teaching Assistant制度を通じて学部生と交流できる場も多く設けられていることから、幅広い視点で学べる環境と考えて志望しました。実際、少人数制の授業を通して一つの作品を深く読み込むことができる点や、ディスカッション形式のなか、多様な解釈が存在することを学べる点は大きな魅力だと感じています。現在取り組んでいる研究テーマは、W. Somerset Maughamの *On a Chinese Screen* と *The Painted Veil* における空間経験の描写を、感覚・身体・想像という観点から分析するもの。物語の内容以外の描写に注目することで、作品の読みがより立体的になることに魅力を感じています。今は大学院で培った多角的に考える力や、自分の考えを論理的に伝える力を活かせる分野への就職を目指しており、まずは社会の中で経験を積みながら自分の関心や研究テーマを見つめ直し、今後の進路をより具体的に考えていきたいと思っています。

英文学専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

河野 芳英 修士(文学)／教授 文学・英国児童文学	修士	『ピーターラビットのおはなし™』の作者、ピアトリクス・ボター™の生涯と業績を掘り下げて研究してゆきます。	小池 剛史 博士(英語学)／教授 英語史(特に古英語)、ウェールズ語学	修士	英語とウェールズ語の歴史を研究し、イングランドとウェールズが歴史的にどのように関わってきたかを考察します。
里見 繁美 修士(文学)／教授 アメリカ文学・比較文学	修士	アメリカは比較的短い歴史にもかかわらず、多種多様な文化を育んできました。その本質に迫ることがテーマです。	山口 みどり Ph.D.(Sociology)／教授 イギリス社会史、ジェンダー史		家族、教育、チャリティ、政治、宗教等、近代イギリスの様々な側面を、ジェンダーを軸に領域横断的に分析しています。
菊池 かおり Ph.D.(English)／教授 英文学・文化	修士	20世紀前半のモダニズム以降の小説、特にヴァージニア・ウルフなど女性作家の作品を中心に、文学と建築の横断的な関係性について研究をしています。	日野原 慶 博士(文学)／准教授 現代アメリカ小説	修士	現代のアメリカ小説やネイチャーライティングなどを研究対象として、それぞれの作品において提示される環境観についての考察を行っています。
藤村 希 Ph.D.(English)／准教授 近代アメリカ文学・文化	修士	19世紀のナサニエル・ホーソーンを中心とする作家の作品を、文化・社会・歴史との関連の下にジェンダーの観点から研究しています。	深澤 明利 博士(国際文化)／講師 アメリカ文学		第二次世界大戦以降のアメリカ文学、とりわけ帝政ロシアに生まれ、のちにアメリカへ亡命した多言語作家ウラジーミル・ナボコフの小説を中心に研究しています。

Topics

紀要『ポローニア』の発刊

『ポローニア』の発刊は30号台に入りました。この紀要は大学院生の1年間の研究成果の発表の場であり、特に1年生にとっては、この発表の公開を持って本格的に研究生活をスタートさせていきます。研究論文を仕上げるということは、自分で発掘したテーマに真摯に向き合い、それを探求して、そして極めるという過程を経るわけですが、それこそが人生における重要な知的財産の構築へと繋がってゆく過程そのものです。毎年11月上旬に開催される「英文学シンポジウム」での発表を基に、推敲を重ねて書き上げたものが、『ポローニア』なのです。大学院修了後に、更に研究生活を続けるにしても、あるいは別の道へ進むにしても、貴重な体験として残ってゆくはずです。



奨学金による留学

英文学専攻の最大の特徴は、院生が希望すれば、毎年1人もしくは2人は奨学金が与えられて、1年間留学できるということです。基本的には、修士課程の2年間は授業をしっかりと受講して実力をつけ、3年目に留学するパターンが一般的です。留学して、結果的に海外で修士号(MA)を取った人も少なくありません。最近の例をいくつか紹介すると、イギリスのバーミンガム大学やロンドン大学またランカスター大学でMAを取っています。MA取得を契機に、他大学の博士課程に進む学生も少なくはありません。因みに、2022年度は1人が留学。さらに、2023年度も2人が留学しています。ぜひ、英文学専攻のこのような特典を利用して、将来を切り開いていってください。

書道学専攻

Calligraphy

東京板橋キャンパス

博士課程 前期課程

博士課程 後期課程

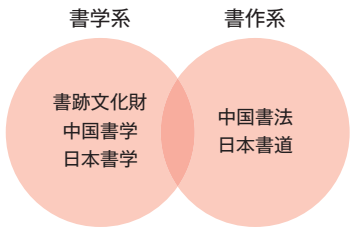
学びの特長

書学系（書跡文化財、中国・日本書学）と書作系（中国書法・日本書道）の5つのコースを設けており、幅広く研究できます。



[Webサイト]
文学研究科 書道学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/literature/outline.html#anc04

学べる領域の図



国内外の多くの大学から学生が集まり、「書」を多角的に研究

書道学専攻博士課程前期課程には、中国書法・中国書学・日本書道・日本書学・書跡文化財学の5つのコースを設けています。在学生それぞれが専門分野を持つと同時に、作品制作に関する高度な技術の習得と、書学書道史や書跡文化財に関する専門的な研究に幅広く取り組んでいます。大東文化大学ならではの書にまつわる多様な学びを刺激に、学生が主体的に講義や演習に取り組むことができる環境づくりに努めています。修了時には学外で修了制作展を開催し、書作の成果を広く公開しています。

後期課程には、中国書学・日本書学・書跡文化財の3つのコースがあり、学外の学会などに参加しながら研究者としての経験を積み、書を学問的に深めて博士号の取得を目指します。

書道学専攻には、内部進学者に加え、国内外の多くの大学から学生が集まります。在学生は、大東書道学会、大学院特別講義、修論・制作の中間発表会など、さまざまな活動を通して書を多角的に研究しています。これらの成果は、年に一度発行される『書道学論集』や『研究集録』などで発表されます。



書道学専攻主任
角田 健一教授

書道学専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

植松 浩祥 修士（文学）／教授 中国明清代の書法	博前	明代清代諸名家の連綿行草体の研究を基礎とし、現代感覚溢れる作品制作を目標とします。	河内 利治 博士（中国学）／教授 美学芸術学、中国書学、明清文人	博前 博後	人はなぜ書を「美しい」と感じ、「芸術」であると思うのか。東アジアの伝統的な書の本質を研究していきます。
西田 健 修士（教育学）／講師 日本書道（かな書道）、書写書道教育	博前	古典に立脚したかなの美を追究しながら、気品があり生気が感じられる作品の制作を目指して研究をしています。	高橋 利郎 博士（書道学）／教授 日本書道史	博前 博後	今日に伝えられる遺墨と歴史上の能書の活動について、それらを取り巻く社会的な環境にも注目しながら日本の書の特質や魅力について研究しています。
綿引 浩一 学士（文学）／教授 篆刻、金石学	博前	篆刻は方寸の小宇宙に作者の知識・技術・感興を集約していく藝術です。金石文字を研究し、作印における現代的表現の技法と理論を探索しています。	角田 健一 博士（書道学）／教授 中国書法、中国書学	博前	「今」に生きる私たちが現代の書をいかに表現すべきか。書作と書学の相互性の中で書の本質を考えます。
丸山 猶計 修士（教育学）／准教授 日本書道史	博前 博後	作品の執筆環境を復元的に考察し、伝来状況を文化史的に検討し、作品の価値や意義を追究しています。	藤森 大雅 博士（書道学）／講師 中国書学、中国書法	博前 博後	書とは何か。主に中国の書作品や書論を通して、書がどのように捉えられてきたかを研究していきます。

Topics

書の腕を磨く

前期課程では、書作に関する授業を豊富に用意しており、存分に腕を磨くことができます。主体的に筆を持って制作に取り組むためには、古典や先人の作品を詳細に見つめ、それぞれにしっかりした書道史観も養わなければなりません。手を動かすことによって、新たなモノの見方が生まれ、作家に特有の表現や研究者としての視点が育まれます。これは保存修復や表装関連の実習でも同様で、作業を通して修復や表装の意義、歴史的な位置付けなどを体験的に修得していきます。腕を磨くと言うことは、目を養い、知を蓄えるということ。書道学専攻ではじっくりと、時間をかけて書に向き合うことができます。

作品制作の成果は修了制作展で広く公開し、修了論文の概要と併せて『研究集録』にも掲載します。



書道学の包括的な学び

書道学専攻では、作品制作や書道史、美学、書跡文化財関連の授業のほかに、書写書道教育や保存修復、日中の文学や美術史など、書の周辺を取り巻く諸領域に関する授業を設置しています。また、外部講師を招いて開催する大学院特別講義では、普段は接する機会の少ない分野の講義も受講することができます。これらを通して、日中の書論をはじめとする古典文学などを読解する力をつけると同時に、今日の書を取り巻く環境にも目を向け、新たな課題を発見していきます。ほとんどの授業は少人数で展開され、輪読やテーマ発表などが行われています。

研究の成果は、毎年夏期に開催される大東書道学会や書学書道史学会などの各種学会、また、院生の編集による『書道学論集』や修了論文中間発表会などにおいて公開されます。



学位取得論文

- 王鐸の書法における繁縷趣味 一繁縷字体の特色とその効果一
- 西川寧による新出土史料の受容
- 冊名金文における書法研究
- 古筆の分割 一江戸時代初期の文化形成との関連を中心に一
- 近世初期における千字文の受容と展開 一和刻本諸体千字文を中心に一
- 徐三庚の刀法について
- 翁方綱の書学思想についての研究 一題跋に注目して一
- 米芾と日常書写 一書学思想と書簡における書写表現一

Student Voice



書道学専攻
博士課程前期課程1年
西嶋 香菜さん
大東文化大学 文学部書道学科卒

書を「学問」として専門的に追究したいと考えて進学を決意

学部時代から書学と書作の両面を重視する教育方針に魅力を感じ、書を「学問」として専門的に追究したいと考えて進学を決めました。理論と実践が相互に影響し合う環境の中で学ぶことができ、研究で得た知見を制作に活かし、制作を通して生まれた疑問を研究へと還元できるのは大学院ならではの魅力だと思います。現在は、西周時代の金文に見られる字体の定量分析による体系化をテーマに研究しており、青銅器銘文を対象に、構成要素の差異や書写傾向を整理し、字体の派生淘汰の背景を明らかにしようとしています。一見ばらばらに見える文字資料の中から一定の傾向や構造を見出せたときはうれしく、研究のやりがいを感じます。大学院は、自分の問いとじっくり向き合える貴重な時間が得られ、深く学びたいという気持ちがある方にとってはとても充実した環境だと思います。今後は、書に関わる分野で自身の専門性を活かせる進路を検討しており、これまで培ってきた研究と制作の経験を土台に、自身の専門性を活かせる形で社会と関わっていききたいと考えています。

教育学専攻

Education Studies

東京板橋キャンパス

修士課程

学校現場や社会の諸課題に対峙する 研究者・職業人を育成する

本専攻は、深い人間理解と幅広い歴史的・社会的視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な実践力を身につけ、社会に貢献できる教育学研究者や教育関連職業人の育成を目的としています。

そのために、教育学・心理学・福祉学・芸術学等の多様な教員スタッフを擁し、各専門分野における固有の知識の社会的意味を深く理解し、広く教育に関わる研究上の諸技能や実践上の諸技能に習熟していくことができる教育体制を整えています。また、各専門講義や研究論文作成においては、個別指導や少人数演習を重視しています。教員や院生同士で教育・人間に関わる多様な課題について問い・問われる中で、課題を発見・明確化し、論理的に組み立て、研究論文としての的確に表現できる力量を身につけることができます。国籍や文化的背景の異なる同僚院生との研究の交流は、多様な価値観・文化を持つ人々と協同で問題を探求し活動する経験値を高め、多文化共生の時代への教育・人間・社会に向き合う訓練でもあります。

修士論文を書き上げ修士号を取得する2年間の勉学・研究の過程は苦勞もありますが、高度に専門的な教育職業人あるいは市民として、複雑さを増す学校現場や社会の現実に向き合うための研究力・実践力、そして人間力を身につけることができる時間となることでしょう。

学位取得論文

- 地方経済衰退下のノンエリート若年層の階級意識
- マーサ・C・ヌスパウムは現代の教育の課題にどう応えるのか
 - ― 登校、外国にルーツをものある子どもの教育を受ける権利―
- 台湾における従軍「慰安婦」研究 ― 原住民問題に視点を当てて―
- 台湾原住民族部落大学における教育実践に関する研究
 - ― 台北市および花蓮地域を事例として―
- 中国における児童虐待早期対応システムの構築に関する研究
 - ― 日本の児童虐待予防及び早期対応システムに着目して―
- 外国にルーツを持つ子供に対する継承語教育に関する研究
 - ― 中国人をめぐる親子関係に着目する―
- 双減政策後中国地方小学校教員文化の変容
 - ― 中国東北地方都市S市を中心に―
- 現代中国人留学生の生存戦略に関する研究
 - ― SNS時代におけるネットワーク形成の実態とその影響―
- 美術部女子から見る学校生活

Student Voice

「自身の問いと社会の問いが両立する」研究が目標です



教育学専攻
修士課程1年
小室 衆吉さん
大東文化大学 文学部教育学科卒

本学大学院の良さは、学生の活動を尊重してくれる点だと感じています。必修の単位が過度に多くないため、学会への参加も積極的に行うことができ、フリーランスの範疇で研究領域に近い仕事にも従事できています。一方で、先生や職員の方がそうした活動を親身に応援してくださる点も心強い部分です。現在の研究テーマは、「高等学校における探究学習の及ぼす影響について」。つまらない「勉強」ではなく、楽しい「学び」をつくるにはどうしたら良いか？という問いをもとに研究を重ねています。その過程でやりがいを感じるの、身につけてきた研究スキルや、アカデミックな理論的知識と実践が結びついたとき。「知・働・遊」が一体になっている感覚で、指導教員の先生に「良い研究とは、自身の問いと社会の問いが両立しているところにある」と言われたことを思い出します。これからも、自身の興味や関心と、自分のできること、社会に還元できる価値を考える思考法を、「知・遊・働」が溶け合う環境に身を置きつつ仕事ができれば良いと考えています。

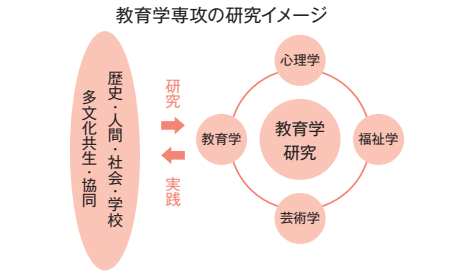
学びの特長

多様な価値観・文化を持つ人々と協同で問題を深く探求し活動することができる広い視野と高度な研究力・実践力を身につけます。



[Webサイト]
文学研究科 教育学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/literature/outline.html#anc05

学べる領域の図



教育学専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

一盛 真 修士(人文学)／教授 教育学・思想史	修士	近代の人種主義・植民地主義の問題をセクシャリティを切り口に「マジョリティ」問題として研究しています。	松田 洋介 修士(社会学)／教授 教育社会学	修士	ひとびとはどのような学校をつくってきた(いる)のか、ひとびとはどのように学校を経験してきた(いる)のかを、実証しながら、わたしたちの社会に学校が存在する意味について考えます。
山中 吾郎 学士(教育学)／教授 教科教育学(国語)	修士	文芸学の理論研究を基礎にして、子どもたちの認識と表現の力を育てる国語科教育のあり方を実践的に研究しています。	杉田 明宏 修士(教育学)／教授 社会心理学・平和心理学	修士	虐待・体罰・いじめ・差別・戦争等、さまざまな暴力の原因と克服の方法を心理学の視点から研究しています。
呉 裁喜 博士(保健学)／教授 保健福祉学	修士	子ども・家庭支援に関わる政策および実践について研究しています。	石淵 聡 博士(文学)／教授 芸術学・舞踊美学	修士	学校集団演技、コミュニケーションとしての身体、身体表現の可能性等をテーマとして理論と実践から探る研究をしています。
田尻 敦子 修士(教育学)／准教授 教育人類学、教育社会学、関係的学習論	修士	インドネシアやイエメン、セネガルにおける学校と地域の関係を状況的学習論の観点から研究しています。	中村 清二 修士(教育学)／准教授 教育方法学(民主主義教育論・道德教育論)	修士	すべての人の「生きる喜び」を保障することが民主主義的教育です。そのための教育の方法と哲学を研究しています。
中村 麻由子 博士(教育学)／准教授 教育哲学・教育臨床学	修士	教師の実践的探求と、研究者の学問的探求を行き来する教育の臨床を基盤にしながら教育学を探求しています。	飯牟礼 悦子 博士(心理学)／准教授 生涯発達心理学	修士	子どもから大人まで、さまざまな「経験」を通して発達する人間の「こころ」の研究をしています。
北風 菜穂子 博士(心理学)／講師 臨床心理学	修士	暴力を経験した子どもや女性への心理支援について、コミュニティ・カウンセリングの視点から研究しています。	山口 刀也 博士(教育学)／講師 教育史	修士	教育と戦争や軍事の複雑な関係について、子どもや教師、保護者などの歴史的経験に着目しながら研究しています。

Topics

多文化交流の授業の魅力

本専攻は、中国、韓国、内モンゴル等からの留学生が常に在籍し、日本人院生、教員との対話の中で講義や研究が行われます。異なる文化の観点から問いかけられる中で、無意識に抱いている自文化の視点や発想の前提が問い直されることがあります。こうした経験は自分の研究テーマに直接関わらなくとも、自身の価値観を相対化し、探求のモチベーションを高めることにつながるでしょう。

現場感覚に裏打ちされた指導

大学院担当教員の専門分野は教育学、心理学、福祉学等多岐にわたっており、それぞれが教育・福祉・地域のさまざまな現場の担い手や子どもたちとの連携を大切にしながら研究・実践を深めています。直接の論文指導の場でも、選択授業の場でも、教員たちの豊富な現場感覚に裏打ちされた知見に接するなかで、研究課題の社会的意味をつかむことができるでしょう。



教育総合研究

1年生必修の導入科目です。多様な専門性をもつ各教員の研究視点・方法のエッセンスを学びながら、教育研究に必要な多角的な人間理解の基盤を造ります。また、年に3回、2年生と教員全員も参加して構想発表、中間発表、成果発表の機会を設け、学年・分野を超えた研究交流を行います。1年を通じて教員と院生、1年生と2年生、同学年どうして切磋琢磨しながら、一人一人の研究力の向上を図ります。

